

**世界の人びとのための J I C A 基金活用事業
終了時活動報告書 (2024 年度採択案件)**

1. 業務の概要	
(1) 案件名	石川県全域に届けたい！外国につながる児童生徒への学習支援
(2) 実施団体名	一般社団法人日本語まなびサポート北陸
(3) 実施期間	2025 年 4 月 1 日～2026 年 2 月 20 日
(4) 実施国	日本
(5) 活動地域	石川県 かほく市、七尾市、野々市市
(6) 活動概要	
<p>①活動の背景： 石川県は、金沢市の周辺の地域と能登半島の地域とでは、距離があり、交通の便などによる格差が大きいという問題があり、支援などが届きにくいとされています。また大災害も続いています。能登地域にも外国につながる子どもは一定の人数がいますが、学校の通常の指導だけでは学年相応の学習に追いつくことが難しく、学習支援を必要としていると考えられています。</p> <p>これまで石川県では、石川県国際交流協会（IFIE）が中心となり、行政や教育委員会、そして地域のサポーターが連携し学習支援を行うための仕組みづくりである「石川県における地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」を進めてきており、外国につながる児童生徒への初期日本語教育が実際に県内のいくつかの自治体（かほく市、七尾市、野々市市）で開始されました。その後の現地の日本語サポーターが継続して「取り出し」授業などを行っていくためには、新たなサポーターの養成、サポーターのブラッシュアップ、さらにカリキュラムの作成や授業内容への助言や支援などが課題となっていました。</p>	
<p>②活動の目標： そこで、本提案では、前述した IFIE による取り組みの実施後の日本語教育を支援していくために、日本語まなびサポート北陸（以下、まなサポと略記）が現地の支援者と共に、新たな支援者の養成やスキルアップのための取り組みを行おうとするものです。具体的には、外国につながる子どもたちへの日本語や教科の支援のために必要な知識やスキルを、子どもの日本語教科書や ICT 機器の使い方を通して、対話を重ねながら、情報共有したりスキル向上を図ったりするというものです。特に、石川県は外国人散在地域であり、交通の便が悪い広い地域に、ICT 機器などを使いながら、うまく支援を広げていくための方法を探ることが重要であると考えました。</p>	

2. 業務実施結果

(1) 実施した内容

「外国につながる児童生徒への学習支援」のための支援者のスキル向上を目指し、実施した内容は大きく分けて、以下の5つのことを実施しました。

- ① 研修会「外国人児童生徒の学習支援者のための教え方や教材をみんなで考える会」（かほく市、七尾市、野々市市において対面での開催。アウトリーチ型の研修会）
- ② 講演会「外国につながる子どもへの効果的な日本語や学習支援のために-小学校の子どもを中心に-（講師は愛知教育大学准教授菅原雅枝氏）（オンライン開催）
- ③ 講演会「地域日本語教育における ICT-オンラインツールを使った日本語支援を例にして-」（講師は石川県国際交流協会専任日本語講師の今井武氏）（オンライン開催）
- ④ 研修会「外国人児童生徒の学習支援者のための ICT 機器を使い方をみんなで考える会」（対面での開催、2回に分けて実施）
- ⑤ 外国につながる高校生のための教材作成と印刷。

(2) 実施成果：

事業の全体の構成としては、②と③のオンラインを使用した講演会への多くの人々の参加で、知識やスキルの普及や底上げを図り、①と④の対面での研修会では、少人数の参加者による対話や情報共有や情報交換を行うことを目指しました。

②と③の講演会はどちらも約 50 人前後の参加者があり、講演後のアンケートでも、参加者から内容の充実と有用だとのコメントが多くありました。オンライン講演会は、参加者にとっても、また主催者や講師にとっても負担が少なく、得られるものも多いので、有効だと実感できました。

研修会（①と④）については、①は、かほく市、七尾市、野々市市にまなサポメンバーが出向くアウトリーチ型の研修会を行ったこともあり、現地の外国につながる子どもたちの状況なども詳しく聞くことができました。④については、ICT 機器を使う内容（具体的にはペンタブレット）に、やや参加者の躊躇などもあったようでしたが、実際の参加者からは、これらの方法の有効性や、今後の実際の活動に使いそうだとの感想が得られました。

独自の教材として、⑤の外国につながる生徒で高校入学、特に石川県の特別入学制度を使って入学しようとする生徒を対象とした教材を作成して、実際の高校入試の準備に使用しました。来日後、日本語教育を受ける時間が十分でない状態で入試を受ける生徒がいますが、A1レベル（初級前半）までの知識があれば、それなりにまとまった内容を面接で話したり、作文として書いたりすることができるようになることを目指しました。これは、昨年までもまなサポで作成し使用していた教材ですが、今年も内容を充実させ、改訂したものです。これを用い、入試前の2か月弱で、高校入試の準備をすることができ、合格に導くことができました。

(3) 得られた教訓など：

オンラインでの講演会と対面での研修会を組み合わせる実施したことにより、情報やスキルの普及と、対面による直接のコミュニケーションによって、つながりを堅固にすることができることが実感として得ることができました。

しかし、一方では、ICT 機器を使う内容については、まなサポで感じているほどの必要性や有用性を伝えることができなかった印象もあります。PC や Wi-Fi などの ICT 環境が整っていない支援者も少なくなく、対面であれば、これらの環境が整っていても活動に支障はないものの、将来的にさらに支援を広げていくことは難しいのではないかと考えられ、依然として課題ではないかと思われます。

今後も、この事業を通して得られた、各地域の支援者とのつながりを維持し、さらに、新しい支援の方法についての情報共有や情報提供を続けていくことを目指したいと考えています。

(4) 今後の活動・フォローアップの方針：

今後も、石川県全域を対象とした講演会や研修会は、継続していく予定です。またアウトリーチ型の研修会では、日頃の集まりではなかなか出会えない支援者と出会えることや、実際の現地での状況を把握できることがわかったので、さまざまな負担は多いものの、できる限り、実施していきたいと考えています。

3. その他(エピソード・感想・写真など)

(1) 活動中のエピソード・感想など

今回の事業を通して、これまで実施したことのなかったアウトリーチ型の活動を行ったことは、まなサポのメンバーにとっても、大きい学びとなりました。現地に行ってみなければわからないことも多く、貴重な情報共有をすることができたと感じています。特に能登地域は、まだまだ地震や豪雨の影響が残っており、移動には困難がありました。そこにどのように支援を届けていくかは、今後もまだ課題であると感じました。

(2) 活動の写真



「外国人児童生徒の学習支援者のための教え方や教材をみんなで考える会」@かほく市



「外国人児童生徒の学習支援者のための教え方や教材をみんなで考える会」@七尾市



「外国人児童生徒の学習支援者のための教え方や教材をみんなで考える会」@野々海市



講演会：「外国につながる子どもへの効果的な日本語学習支援のために～小学校の子どもを中心に～」



研修会「ICT 機器の使い方をみんなで考える会」



講演会「地域日本語教育における ICT ～オンラインツールを使った日本語支援を例にして～」



高校特別入学制度を使う外国の生徒向け教材『高校へ行く！自分のことを話して、書く練習』

(3) JICA 基金活用事業を実施したことで団体の成長につながった点・良かった点

JICA 基金活用事業を実施したことによって、上述したようなアウトリーチ型の活動を行うことができたことは、資金面で大変ありがたく、まなサポの団体としての成長につながったと感じていますし、また今後の課題を強く認識することにもなりました。

本活用事業では、寄附金を使っでの助成であることから、資金の会計処理が難しく、書類作成の厳格さを知り、同時に当団体にとってある種のトレーニングともなりました。これまでの認識を改めるために、税理士の助言を受けたりすることにもつなげました。一方で、その時間を活動自体に振り向けることができたという思いも持ったのも事実です。